

2020 年度 東京大学工学系研究科応用科学専攻 学位記伝達式
開会の辞（要約・抜粋）

みなさん、ご卒業おめでとうございます。

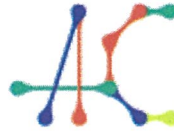
桜も花開く素晴らしい天気です。スキーフリークの私としては複雑な思いもありますが、みなさんの門出の日にふさわしい素晴らしい天気です。昨年この式が中止されたことを考えると、このような晴れやかな日に対面で式を行えることに大変な感慨を感じます。

みなさんは、新型コロナによる強い制限下で修士・博士研究を行った初めて世代となります。我々教員は、事務のみなさんと協力してみなさんの学習・研究の機会を損なわないように最大限の努力を行いました。それでも、みなさんにとっては不都合の多い環境だったと思います。一方、このような制限のある環境・変動する環境でこそ、本当の実力というものが浮き彫りになります。本年度の修士発表会そして博士審査会でみなさんの成果を見ました。例年と比べて全く遜色なく、むしろ標準を大きく超える成果・発表もあり大変感激しました。みなさんの努力と成果を大変に誇らしく思います。

応用化学は、「創造する化学」を標榜しています。みなさんの修士の研究、そして博士の研究の成果からその一端を確認することができました。綿々と続く「創造の系譜」が、コロナ禍でも力強く受け継がれていることに感動を覚えます。

現在のコロナパンデミックは遠からず収束するでしょう。しかし、環境問題・エネルギー問題・社会格差問題、高齢化問題、などまだ未解決の問題が数多く残っています。これからの世界は、人類史上かつてない速度で変容すると思われまます。社会をどう変えるのか、それを決めるのは皆さんです。みなさんは、もはや変容する社会に適応するだけの存在ではありません。あるべき新しい社会を選択し創造する主体的なプレーヤーなのです。是非、応用化学で会得した「創造する力」を、より高い次元で発揮してください。

そのために、是非射程の長い視点の志を持って欲しいと願います。みなさんは、もしかすると自分のことだけで精一杯で、社会をみすえた志を持つ余裕がなかったかもしれません。しかし、これからは視野の狭い利己的な志は許されません。ノブレスオブリージェという言葉、ご存知だと思います。みなさん



はいろいろな意味で恵まれています。生まれ持った才能、家族、友人、環境、それら全てにおいて。もちろん、大変な努力をしてきたことをよく理解しています。それでも、みなさんの素晴らしい能力と成果は、みなさんの努力に加えて、周りの方々のサポートと環境によるところも大きいことを再確認してください。みなさんには、次のステージでその能力を自分のためだけではなく、より多くの人たち・次の世代、そして地球環境のために使う責務があります。

そのためには、大きな志を持って欲しいと思います。「創造する力」は、実はそれだけでは空疎なものとなり得ます。場合によっては、社会に害悪を与えかねません。そこに価値を与えるのは、みなさんの志です。ここでいう志とは立身出世ではなく、「社会にどう貢献するのか」という志です。みなさんには、そのような広い視野に基づく「志」を改めて確認し、それを実現するために「創造する力」を発揮して欲しいと思います。

新しい社会を牽引する中心的プレーヤーとしてのみなさんに最大のエールを送り、開会の辞とします。

2021年3月19日

東京大学工学系研究科応用科学専攻 専攻長
野地博行

野地博行